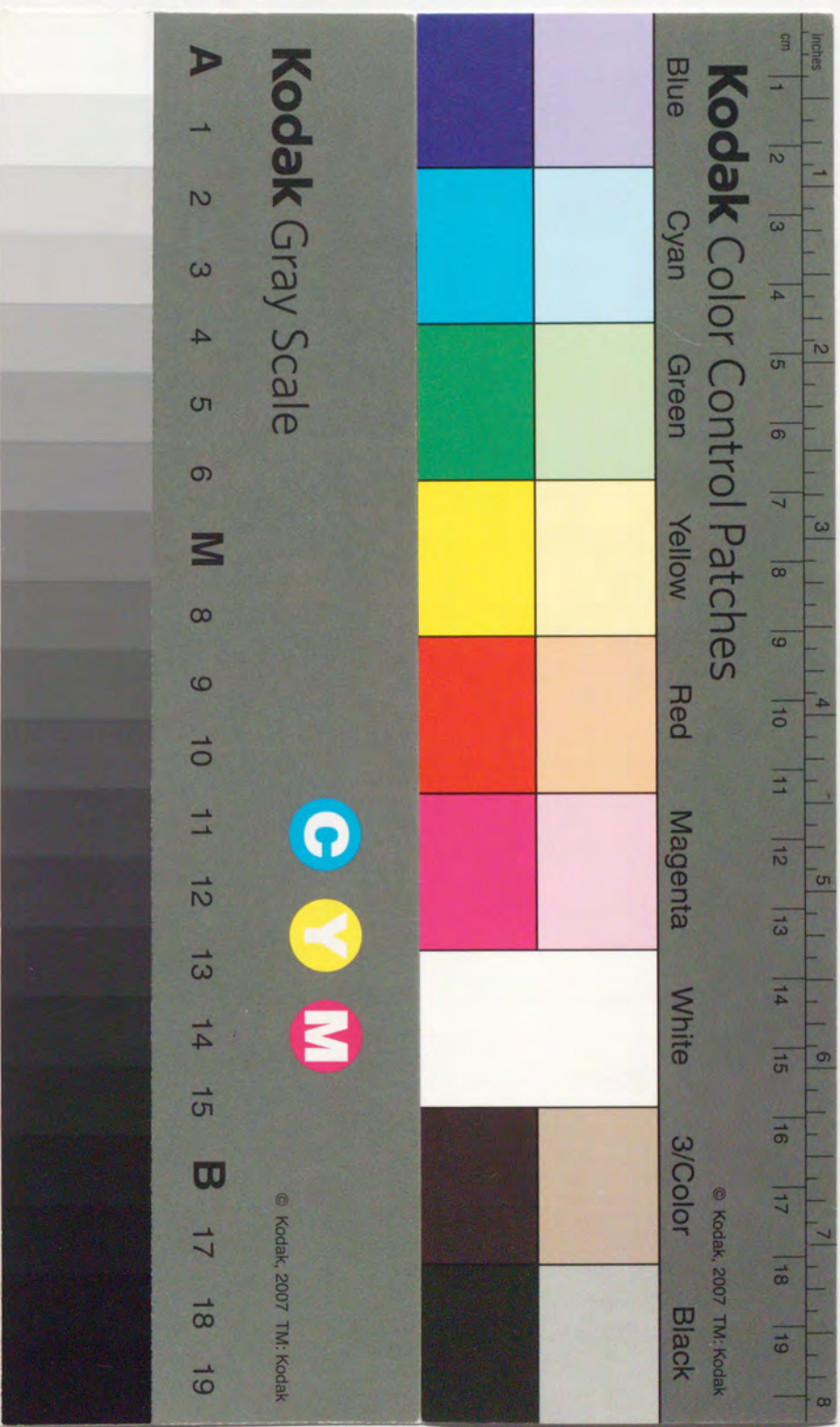




めん
ふ

女四巻

工のまき

かき板



多し唐の女に孝を教ふの故に
お授けに女房の教ふ事ある一條
昔に殊に手短かき教ふ事ある
お授けに利十代と傳ふ

種島兵部

お授けに武
お授けに甚だしき事
お授けに抱ふ事
お授けに英流のほの位人
お授けに三つ考ふ利の天
お授けに奪んてゐて三好ね永おと
お授けに金おとじつた三つの事



お授けに公おに我おに蛇
お授けに公おに我おに蛇
お授けに公おに我おに蛇
お授けに公おに我おに蛇

つぎきいられ
はるしをん
はるしをん

はるしをん
はるしをん

はるしをん
はるしをん

はるしをん
はるしをん

はるしをん
はるしをん

はるしをん
はるしをん

はるしをん
はるしをん

三好五郎義胤

島兵部 道三

はるしをん
はるしをん

はるしをん
はるしをん

はるしをん
はるしをん

はるしをん
はるしをん

はるしをん
はるしをん

はるしをん
はるしをん

はるしをん
はるしをん

はるしをん
はるしをん

はるしをん
はるしをん

はるしをん
はるしをん

はるしをん
はるしをん

はるしをん
はるしをん

はるしをん
はるしをん

はるしをん
はるしをん

はるしをん
はるしをん

はるしをん
はるしをん



足利義輝公



十河義次

[illegible]

神祇の
金物

⑤ ありあり いさ
 く いさ
 又と云ふ

紫珠 泉
 のうち子
 有金珠
 七珠

山本勘助

女御前

懐^{あふ}ふ^ふは^はに^にて^て 集^{あつ}め^めて^て
 今^{いま}を^をも^もと^とに^にて^て 集^{あつ}め^めて^て
 の^の内^{うち}を^をえ^えま^まし^し
 身^みの^の飲^ぐみ^みを^を付^け
 知^しる^るは^は目^めを^を限^{かぎ}る^る



かきかきと返す
 敵一とてうき
 社のまじりのやうな
 是うせうくしと元
 知れぬふまがれ
 落合

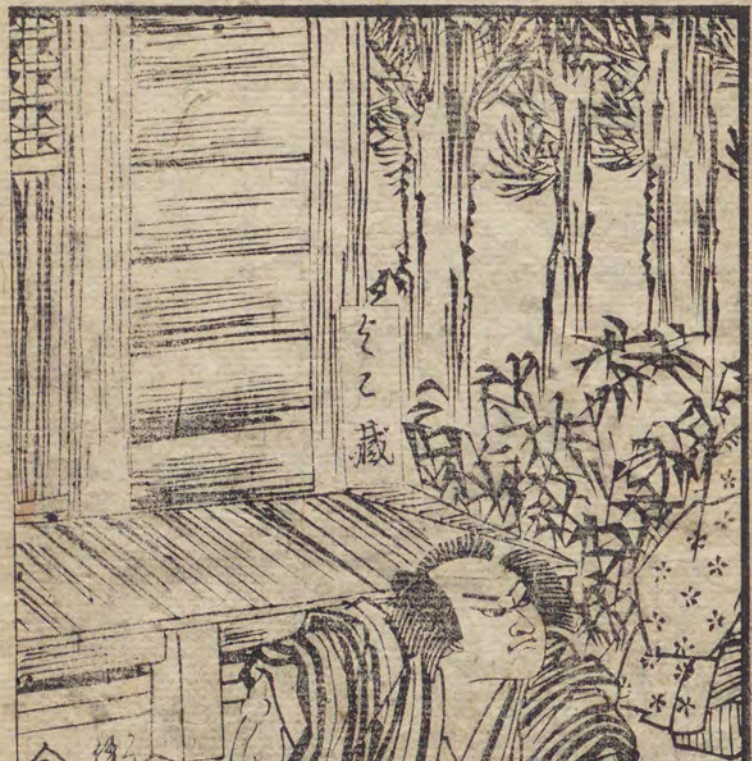
長尾景勝

のそ
 をあそ西側
 いふ
 けふ
 けふ
 けふ



△うい様る雲石
 を渡る月一の
 小武世を
 片手お引さ
 渡のあふ
 けそあふ
 足付するの
 そ横前
 乃きお退
 或とてやう
 今の方の付
 果しうい我ろん

とこ蔵



あふそのつ
 初云
 い上
 強信
 の
 後といふものありき方
 今の橋あふ民ふし
 へ

さきづきの我

はるあささうめと新

めし横濱はるあささ

有難き作せあきとも

我へええ

のそと

ほくま百能

そん安く

くらまが安

あまう△



まじ

く

ま

ま

ま

ま

ま

ま

ま

ま

ま

横 藏



空り又の録

なまなぐーとこ

とを改竄して

形あたる様

斤辺の

勝

おウけ

ドリヤ

一体とくく

うあそ家の標りをとら

そあへドヤくら

一日顛倒横濱より

おあし逢ふもあ

へ

あひと使ふきても山家の

そあし逢ふもあ

三 ところを志ある人トやそ云
 へカラスを擧げたりけ考へはるを
 ねがふをぬきぬと然りあがりある
 と云ふを云打笑ひ人の

橫藏

ある松を^{やう}邪^{いぬ}
まゐるを^{あふ}まゐ

のうまい
わがスズク



道三

投遞

で異人と双方

一ツツヤツと

声目より由る

くは上て大地^{どちう}くどちうと

授けられた村の老いあつたおき

常りの程が瞬しやと一日を立退る様を

△振向ふふ令近
を付さしむるを

卷之六

一
紫

大なるる

宛然

卷之三

蘇州府志

用

文四上

一

ときでめんまると同
 久世老人傳をききみ
 のねとまう
 金つ大
 常く動
 志の方
 んとふはかひ
 あつてとあつてとあつて
 大か我は後ひ一方の力とあつて

武田信玄
 △何れもそが
 の在り河國
 やと同は老我
 今天うを
 身ゆ人
 とはま
 るあり再會
 の志は
 の義は
 勝く
 方お
 けわ

跡部刑部



らされも我を
 歌の流
 た
 る
 一人
 こそ
 仕置
 思ふ
 れは
 つは
 れは
 八重垣姫

勝頼ハ兼作

△と海
 まを
 推
 至ひお又
 對を
 西の
 お別
 源の
 伝書
 更源



きんとうる

あるき押

あるきと進をこえて

我子の義徳をるる

の美名人留るる

保科弾正

在方勢多盛がけ

家持を美輝とてい

せよ上杉の両家とて

へるるなりとてふるる

月妻



○結城を懐ひて

それ我の切腹とて

我の切腹とて

百人の切腹とて

砂の上の我子の仇

我をせよと振

おれは切腹切付

人男とて

結城を懐ひて

それ我の切腹とて

我の切腹とて

を

を

を

を

を

を

を

を

を

を

を

を

を

を

を

を



結城

結城

結城

結城

結城

結城

結城

結城

結城

結城

結城

結城

結城

結城

結城

結城

新四上

新四上

新四上

新四上

新四上

十

十

十

十

十

五以不而兒也

了りていふこと
 進んで立障る
 偏相の憂と
 考を極めり

妻唐綾

あつそ
きふもろくゑの月しづなり

又石山本流の軍家

の海と衆まんりのとほれも

忠義の心を世に傳へしめしめす

すすくを繰るをひきま我方と云ふ

ふもろをのため難くは何方のものともあること

國々のあはれ杭より陸地の方へ片寄るるなり

遂ふ多飯俵料を乞仕め兒を將とう妻の産後う△



乃て是より後のちれ
 のていつの巻（すゝめ）
 ヲそらじく
 見くづし

書



下

本
新
下
の
ま
さ
な
な



おやん



信濃越後の事やとて隠後白河とう言て
薩摩邪 里いそねもあふたれと
いとまひさきよりなるなる
つみえふきひの何卒山
本流の家系
の隠後の二もあんと
在りて隠後内末の知れぬ門は
まはるる声や女房まゐりて隠れ
修進一人の女中何方よりと内
られり日さらけ 隠後のものあやが
松林とまゐる隠れい
小丸のあやうい育へ

大田下

△ちねの父や野
山と影ん
とる中
いふ系
はま
何卒
おやん
やと女房いふま
おやん女房を
へ



老母

㊦ 子の多
 子多

母の夢よりき
お門にぬれべ
る流の武士先
中支と内木橋
何用ゆてむぎ
はにいあふくさ
父事と聞けり
れが常備をま
をわい何ぞ句え
そにかゝか
主たる意庵常
中君の家探し
やうのへき者ぞ在抱人

長尾景勝

[illegible]



大目

ふき 世に存るぬ我父のとりて 安んずるや

こと 留れあふりし 重垣姫

い 渡るゑと我をよみて 後

ふと ぞぐり 需衣

後 衣

謙信

我



上

一大

と なる

と なる

と なる

と なる

と なる

と なる

と なる

と なる

と なる

原小次郎





